

ふるさと知事ネットワーク「若者グループ交流」紹介記事

南陽の若者中心に交流

話題の  
十字路

プロジェクトは、昨年福井の若者が南陽市や山形市を訪れた県の交流事業がベース。それぞれの地域で進める地域おこし活動や特産品をPRした。この事業に参加したプロジェクトの戸田密一代表(32)＝県職員、南陽市西添台＝は、今度は山形から出向き、

広がれまちづくりの輪  
来月、福井でイベント

山形と他県の若者を結び、まちづくりを活性化させようとする若者ネットワーク「プロジェクト」が南陽市の若者を中心に動き出した。昨年本県を訪れて交流のある福井県の若者と協力し、来月福井市で共同イベントを展開。地域間で情報を共有するネットワークも設立する。将来は規模を拡大させ、全国各地とつながるといふ構想。先月30日、福井を訪問するプロジェクトメンバーの事前学習会が開かれ、何を学び、吸収して行くか確認した。

南陽市で開かれた第一回事前学習会には同市、山形市から15人ほどが集まった。職業は市役所職員や農家などさま



福井県の若者とのネットワーク設立に向けた事前学習会  
＝南陽市えくぼプラザ

他県の取り組みと比較することで、自分の地域の魅力を発見できるほか、足りないものも見えてくるはず。地方に住む若者同士、地域づくりに磨きをかけてほしい。  
(南陽支社・大滝玲)

さま。以前から南陽市の若者にまちづくりを指導する宇都宮大地域連携教育研究センターの広瀬隆人教授を講師に、訪問の目的を明確にした。広瀬教授は「今展開している地域おこしの売り、特徴を自分の言葉で説明できるように」複数のまちおこしグループに参加している人がいて、グループ間のつながりが強い」などの特徴を挙げ、自分たちの活動を再認識した。戸田代表は「2県だけの交流に終わらせず、各地に広げたい」と力を込める。